

別記第5号様式(第8条関係)

平成30年度政務活動費収支報告書

平成31年3月31日

北広島市議会議長 佐藤敏男様

会派名 自由新生クラブ

代表者名 橋本博



北広島市議会政務活動費の交付に関する条例第7条の規定に基づき、下記のとおり平成30年度の政務活動費に係る収入及び支出について報告します。

記

1 収入 政務活動費 468,000 円

2 支出

使途基準項目	金額(円)	内 容
研究研修費	33,108	札幌・石狩地方議員連絡協議会会費
調査旅費	288,058	行政視察(柴波町(女性議員の会4THINK視察同行)、登米市、東京都、函館市)
資料作成費	83,288	インクカートリッジ等
資料購入費	6,480	書籍代
広報費		
広聴費		
要請及び陳情活動費		
合計	410,934	

3 残額 57,066円

注1 内容欄は、主たる内訳を記載すること。

2 支出の使途基準項目別、支払先別の調書を添付すること。

3 政務活動費を充てた経費に係る領収書(領収書を徴することが困難な場合は、経理責任者の支払証明書)の写しを添付すること。



使途基準項目別支払調書(調査旅費)

年	月	日	支出額	内容	備考
30	4	27	32,360	往復航空券代	
30	5	8	5,500	宿泊代	
30	5	8	3,240	視察研修代	
30	5	9	1,737	タクシー代	
30	5	18	86,680	往復航空券代・宿泊代	43,340 x 2
30	6	5	9,000	菓子折り代	
30	7	26	59,488	往復航空券代・宿泊代	
30	7	26	216	往復航空券代・宿泊代振込手数料	
30	7	26	1,180	JR券代	
30	7	26	3,000	電車チャージ代	
30	7	27	2,000	電車チャージ代	
30	11	6	33,800	宿泊代	
30	11	5	2,700	タワー展望チケット	
30	11	5	550	タクシー代	
30	11	5	1,190	タクシー代	
30	11	6	1,350	タクシー代	
30	11	5	300	駐車場代	
30	11	19	37,525	レンタカー代	
30	11	4	6,242	菓子折り代	
合計			288,058		



会派名 自由新生クラブ

使途基準項目別支払調書(資料購入費)

年 月 日			支出額	内容及び支払先等
30	11	19	6,156	書籍代
30	11	19	324	振込手数料
合 計			6,480	

# 研修報告書

自由新生クラブ 橋本 博  
谷浦浪子

視察研修年月日 平成 30 年 6 月 6 日～7 日（1泊 2日）

## 視察研修目的

【1】 北海道 150 年事業「未来へつなぐ米の歴史発信事業」が芸術文化ホールで 10 月 20 日に開催される予定となっています。このことから「寒地稲作の父：中山久蔵」が 1853 年から 1869 年までの 16 年間、仙台藩士片倉英馬に仕従していた当時の様子の再調査とともに、150 年事業でナレーション入りの動画放映を企画していることから旧片倉家周辺の大水田地帯などをビデオカメラに収集するための目的で登米市中田町石森字二ツ木「元登米市初代議長：千葉清昭」宅などで視察研修を行った。

また、稲作発祥の地、旧島松駅通所に隣接する蓮池の蓮が退化傾向にあることから、原因と管理方法を学ぶために、登米市と栗原市にまたがる「サンクスチュアアリセンター公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団」で研修した。

## ※研修結果

①中山久蔵が居住していた戊辰戦争までの 16 年間は殆ど冷害、やませ（冷たい風）の影響で不作凶作続きであったため食べ物で苦勞した。②寛文 11 年（1672 年）ころから居住する千葉清昭宅の 300 年前の蔵から明治初期前後の 16 戸の集落に組を作らせ 8 月に粃の貸し出しをした古文書が最近出て来た。8 月とは水田に蒔く種粃ではなく食べる粃米のことであり、当時の凶作の様子を物語っている。また、この地区の石森（二ツ木）周辺は土地が悪い場所で 6 合と呼ばれていた。言われは一坪で一升の米が収穫できるところ 6 合しか収穫できない土地の悪い意味合いの場所であったとのこと。

・昔から水田に深水をして稲を冷害から守る方法が取られていたとのこと。今日ではこの方法を水田農家は常識的な方法としている。

・中田町の由来の中田沼は、石森の北部に位置し、石森、上沼、岩手県永井にまたがった大沼であった。この沼は標高が周りより高いが水深は浅く自然の溜池として沼の周辺の農業用水となっていた。

明和年間（1764～1772）中田沼の北部に連なる小名倉山に潜穴を掘って北上川からの導水を図ったが不十分で思うような利用はできなかった。

・その後、明治 39 年中田沼を開墾することと蒸気ポンプで北上川より取水することが決議され、難工事は完成した。この中田沼から水利の恩恵を受けていた当時の石森町、上沼村、宝江村、浅水村の 4 ヶ町村が合併し、中田町となった。「中山久蔵は水や凶作で大変苦勞した時代を石森で送っていたことが千葉家の古文書や佐藤愉一先生のふるさとの歴史書から学ぶことができた。

山の底を掘って（潜穴）北上川から水を引いて沼に水を貯留していた水との戦いであった。久蔵が苦勞した時代背景が明かになってきた。

今後、千葉清昭氏に依頼して古文書のコピーを送っていただくお願いをして、当時の農村における困窮状況を調査したいと考えています。

- ②旧島松駅通所に隣接する蓮池の花びらの観賞に訪れる人々が年々増加しています。しかし、昨今は蓮の生育に何らかの支障で退化傾向にあります。このことからラムサール条約の登録地に指定され、560 ㊦の大面積を要する伊豆沼・内沼に見事な蓮が咲き乱れる 7 月下旬から 8 月下旬の一か月間は多くの観光客が訪れる美き自然の楽園の「サンクスチュアリセンター公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団」を訪問し、中村事務局長・藤本専門官から、蓮の栽培方法と、教育委員会が実施しようとしている旧島松駅通所の蓮の退化の改善策についての指導を受ける視察研修を行いました。
- ③中山久蔵が仕従した片倉英馬家の本家筋にあたる白石城主片倉小十郎 16 代目のあたる伊達政宗公青葉神社宮司：片倉重信を訪ねる。
- ④中山久蔵が仕従した片倉英馬家の菩提寺で仙台藩関係者が埋葬されている青葉町覚範寺で墓参。400 年前の石碑の大きな墓には歴史の重みを感じた。4 代目の定矩、9 代目の顕矩・利佐夫妻の墓石があった。片倉家 400 年の重みのある歴史を感じた。



サニクスチニアリセンター  
公益財団法人宮崎県伊豆沼・内沼環境保全財団  
藤本氏から栽培方法や運根（穴）の話しを伺



中山久蔵の任えられた倉英馬の墓





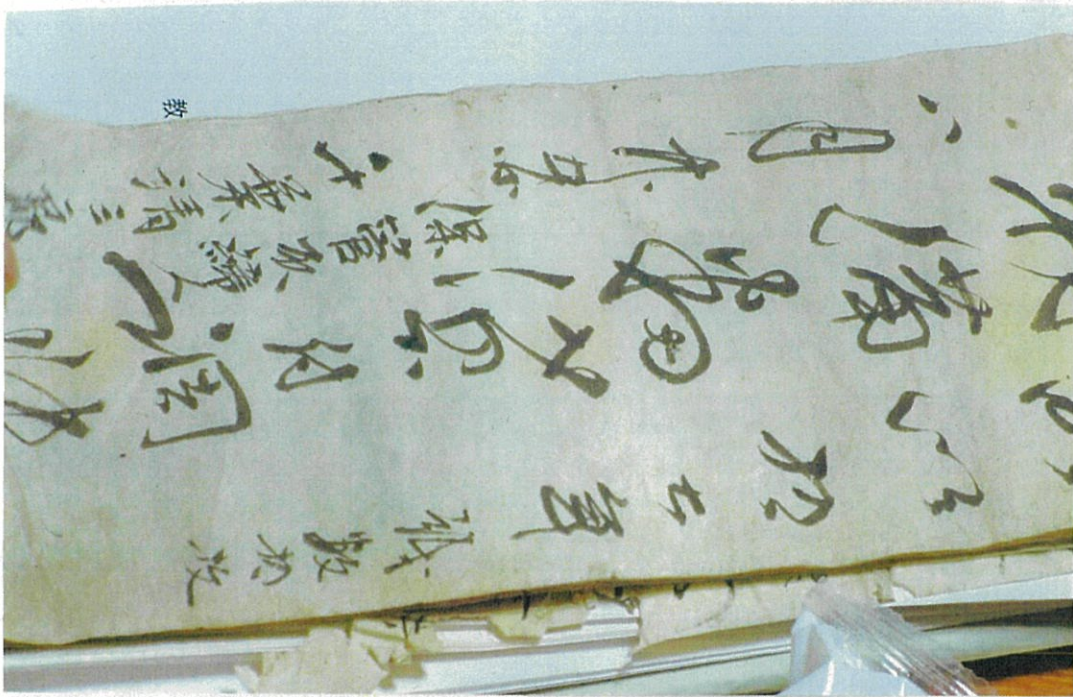
千草在清昭宅にて取材を行う  
右は郷土歴史家の千草きくおの義兄佐藤愉二さん



教育委員の千草  
中田庁舎



就任前も高橋富男  
教育長に挨拶中千草の足跡を込めて贈



千葉清昭さんの四代目への  
千葉清三郎さんの16代目表とこの  
文庫の蔵から出て来た



一帯の大水田地帯



「中山久蔵の足跡を辿る」を贈呈に  
大塚市本庁の総務部長に  
挨拶

## 2018年 視察報告書

自由新生クラブ  
島崎圭介

7月26日(木) 12時~17時 東京ビックサイト

SPORTEC2018、第27回ヘルス&フィットネスジャパン、第3回ウェルネスフードジャパン

### 【視察項目】

高齢化社会に適応したトレーニング機器や次世代型トレーニング機器、介護用品、介護ケアシステム等の情報取得を主に、日本最大規模の健康福祉産業の展示会を視察し、今後の市政・政策に反映するための情報収集をするものである。

### 【視察内容】

日本最大級の規模を誇るスポーツと健康・福祉産業の展示会であり、スポーツ設備・機器、フィットネス機器、スポーツ用品、サプリメント・健康食品、スポーツツーリズムをはじめ様々な関連企業ブースが国内外から出展する他、スポーツなどに関するセミナーやイベントも多数行われ、会期中は「食と健康をつなぐ食品・飲料・素材専門展 第3回ウェルネスフードジャパン」も同時開催されていた。

2020年に開催する東京オリンピックに向けて増加するスポーツマーケット、社会保障費の削減や高齢化に向けた健康増進産業の拡大、運動機能障害者や認知症患者に対応した介護ニーズの増加など、今後益々SPORTECの関わるマーケットは発展しており、国の進める経済政策の中でも、最も注目されている市場の一つである。

非常に短時間のおためし版のプレイであったが、イカロスというドイツ製の体幹トレーニングマシンのVRフィットネスの可能性を感じた。VR×フィットネスは今後、急速に発展していく分野だと思うので、とても楽しみでもあり、フィットネス人口のすそ野を広げる中心的な役割を担うことになると感じた。また、介護ケア商品では服を着たまま洗髪ができる最新機器では、自身もやっていただいたが、服が全く濡れずに非常に爽快感がある洗髪ができ、介護予防の現場では非常に有用であると感じた。

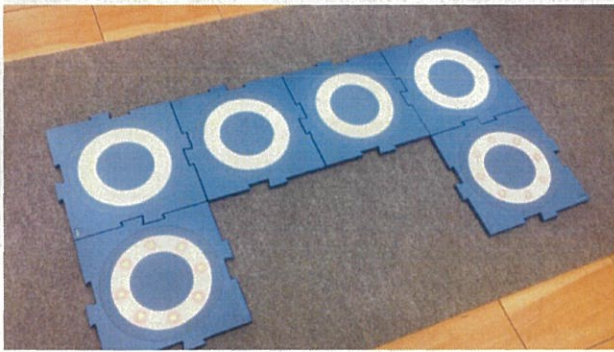
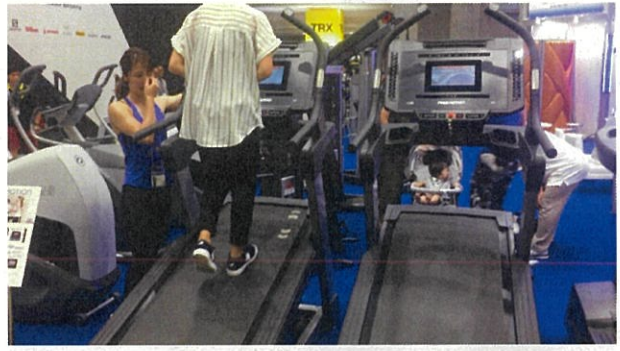
多岐にわたる商品や次世代を睨んだトレーニングについては興味がわくものであったが、中でも千葉県柏市で取り組まれている、「みんなで作る支えあいの仕組みづくり」では、団地造成から年月がたち高齢化率が21.6%、要介護率が17.6%である、UR団地の取り組みが目をつけた。

柏市と東京大学高齢社会総合研究機構の取り組みで、「超高齢社会に適応した地域包括ケア(まちづくり)の戦略と展開」というテーマでの取り組みである。

総合体育館や各地区体育館のトレーニング機器更新、これからの介護予防システムや行政・地域での取り組みに際し常に情報収集に努めるとともに、今後の当市における取組の参考とするべく、今後も研鑽していくものである。

【視察写真は枚数も多いことから本文と関係のある写真のみ添付するものである】

【参考写真】



# 2018 年行政視察 報告書

自由新生クラブ

11月5日（月） 14時から15時30分

函館市役所 経済部商業振興課・企画部計画推進室

## 【視察項目】

### 1. 中心市街地の活性化基本計画について（経済部） 主査 木村成人 様 加藤基樹 様

函館市は、「中心市街地活性化基本計画（2013年3月内閣総理大臣認定）」を策定し、五か年計画で本年3月に計画期間を終えた。JR函館駅、JR五稜郭駅、五稜郭タワー、函館空港・湯の川温泉を結ぶ中心に重点的な推進を図り、賑わいを創出するとする。

主たる事業は、駅前若松地区第一種市街地再開発事業、渡島ドーム整備事業、はこだておもしろ館整備事業、子育て世代活動支援プラザ整備事業 等 である。

特に、若松地区第一種市街地再開発は、「キラリス函館」と称するビルで、上記のはこだてみらい館・はこだてキッズプラザを備え、5階から16階は分譲マンションである。

本町地区優良建築物等整備事業においては、「シエスタ函館」と称され、フードコート、商業施設、コミュニティプラザを備え、5～19階は分譲マンションである。

### 2. 函館駅前市有地等整備事業について（企画部） 主査 上田智子 様

現在、函館市は駅前における複合商業施設開発を推進中である。「ロイヤルパークス ER 函館駅前」と称したプロジェクトは函館市が公募型プロポーザル方式の事業提案に応募し、審査の結果2016年9月に事業者として認定されたものである。

サービスアパートメントを備えたホテルと店舗からなる複合商業施設を2019年12月に開業予定である。

にぎわい創出の複合開発プロジェクトであり、地上11階客室数261室、一部にはサービスアパートメントを設け、インバウンドの長期滞在型観光にも対応する。館内は天然温泉の大浴場、コンビニも完備する予定。

また、商業施設は飲食・物販店が16店舗出店予定。

観光の視点からは、函館インフォメーションアプリとして「函館NAVI」を作成。名刺サイズカードにQRコードを記載配布、ダウンロードしてもらい使用する。当市について参考になった。

プロポーザルの内容、経過、経過における課題、審査の経過をお聞きし、今後の当市における同様事業の参考とするべく、今後も研鑽していく。



11月6日(火) 12時から15時30分

一般社団法人 倶知安町観光協会 松田泰昌 事務局長 様

株式会社東急リゾートサービス NISEKO 綾 支配人 下地領一 様

同上

営業グループマネージャー 萬谷政博 様

【視察項目】

昨今のニセコ・倶知安地区の観光事情及び建設計画。今後の北海道インバウンドの推測と、町や北海道の課題点など。

昨今、海外からの移住やインバウンドで隆盛の、ニセコ・倶知安地区の現状を、松田事務局長に伺った。また今後当市における観光協会の在り方、改革についても忌憚のない意見交換を行った。

現在、ニセコ・倶知安地区では、大型宿泊施設や滞在型コンドミニアム、アパートメントホテルの建設ラッシュである。町の中は、外国語が飛び交い、飲食店・商業施設も多国の言語表示が常態化し、英語や中国語やドイツ語を話す従業員や観光関係者も少なくない。観光協会の職員は、多国語を話せることも必須条件である。

観光協会においては、町からの補助はかわらずあるものの、観光協会としての自主事業運営で「稼げる観光協会」を常に目指している。トヨタレンタカー倶知安営業所としての委託事業や、ガイドブック作成の広告料その他作成費など、仕事は多岐にわたる。

その中でも、行政と民間の狭間にありながら、調整をすることが日々多いと聞いた。交通量の増加により交通事故も多発するなど、道路整備についても行政の計画策定等に、民間として悩み多き毎日であるようだ。

「東急リゾート綾」の最高級室、中級室など見学をさせていただき、インバウンドの滞在状況などをお聞かせ頂き、当市においても同様の案件の可能性について、情報収集すべきと感じたところである。

先進地からの観点から、当市のボールパーク決定を受け、アジア1のボールパークを目指すという点においては、当市の観光レベルもアジアのトップレベル、世界レベルを求められるものとなり、現在の体制からの脱却は急務である。行政のスピード感、議会側のスピード感もこれまで以上に求められる時代となり、人的ネットワークや情報収集がさらに必要とされる日常・議会となる事について、改めて研鑽していくものである。



文責 島崎圭介